



公益社団法人 日本化学会

目 的

本会は、化学に関する、学術の進歩・技術の発展・産業の振興・知識の普及、並びにそれらを担う人材の育成を図り、もって社会の発展に寄与することを目的とする。(定款第3条)

沿 革

1878年(明治11年)	化学会創立、翌年、東京化学会と改称
1898年(明治31年)	工業化学会創立
1921年(大正10年)	東京化学会が日本化学会と改称
1948年(昭和23年)	日本化学会と工業化学会が合併
1991年(平成3年)	化学会館竣工
2003年(平成15年)	創立125周年記念
2011年(平成23年)	公益社団法人に移行

役 員

代表理事 会 長	山本 尚 (中部大学)
代表理事 筆頭副会長	辻 康之 (京都大学)
業務執行理事 副会長	小坂田耕太郎 (東京工業大学)
同	佐藤穂積 (JSR株)
同	武馬吉則 (花王株)
同	谷口 功 ((独)国立高等専門学校機構)
同	西山 繁 ((一財)慶応工学会)

理 事 19名

監 事 4名

所在地 東京都千代田区神田駿河台1-5、全国に7支部

会員数 28,441名(平成28年4月末現在)

常勤職員 30名(平成28年4月末現在)

予算規模 年間約9億円

主な事業

学術集会の開催(年会、シンポジウム、講演会他)、表彰、出版(機関誌、論文誌、ニュースレター、書籍)、教育・普及事業、産学・産産連携(CSJ化学フェスタ)、国際交流、環境安全推進、男女共同参画推進、政策提言、調査・研究、受託事業

春季年会

化学に関係するあらゆる学問領域・分野の研究者が一堂に会する
講演件数約 6,000 件、参加者数約 8,500 名の規模を誇る
国内最大級の学術集会

研究成果を発表し、情報交換を行う『アカデミック・プログラム(AP)』および
産学・産産交流を目的とした『アドバンスト・テクノロジー・プログラム(ATP)』
を中心に、『アジア国際シンポジウム』、『市民公開講座』など、毎年多彩な
シンポジウムが企画され、会長講演、日本化学会各賞授賞式も行われます。
また、分析機器や化学図書などの展示会も併設されます。



ノーベル化学賞受賞者

出版

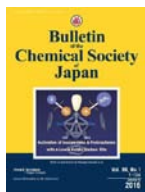
化学と工業

本会と会員、会員同士を結ぶ機関誌。
化学・工業分野の動きを他分野の方
にわかるようにやさしく解説。

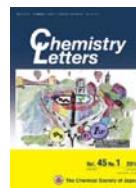


化学と教育

化学教育の専門誌。化学の基礎を平易に
解説するとともに、化学教育に関する論文、
教育現場の実験報告などを掲載。



Bulletin of the Chemical Society of Japan
1926 年創刊。基礎化学から応用化学まで
化学分野全般を対象とする国際論文誌。



Chemistry Letters
1972 年創刊。総合化学一般誌として、
最新の研究成果を掲載する国際論文
速報誌。

書籍

化学便覧 基礎編、応用化学編(丸善出版)
CSJ カレントレビュー(化学同人)
感動する化学—未来を開く化学の世界(東京書籍)
化学の要点シリーズ(共立出版)、他多数



The Chemical Record



Chemistry - An Asian Journal



Asian Journal of Organic Chemistry



ChemNanoMat



出版社やアジアの学会と連携した論文誌

支部・部会・ディビジョン

支部(7)

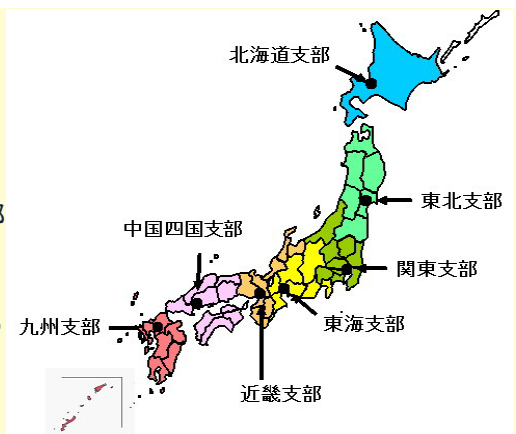
北海道支部・東北支部・関東支部・東海支部・近畿支部・中国四国支部
九州支部

部会(5)

コロイドおよび界面化学部会・情報化学部会・生体機能関連化学部会・
バイオテクノロジー部会・有機結晶部会

ディビジョン(21)

物理化学/光化学/理論化学・情報化学・計算化学/無機化学/錯体化学・有機金属化学/有機化学/
天然物化学・生命科学/生体機能関連化学・バイオテクノロジー/医農薬化学/分析化学/電気化学/触媒化学/
高分子/ナノテク・材料化学/コロイド・界面化学/有機結晶/資源・エネルギー・地球化学・核化学・放射化学/
環境・安全化学・グリーンケミストリー・サステナブルテクノロジー/化学教育/化学経済・経営・研究管理・MOT/
生産技術・製品開発



教育・普及

2016年第48回国際化学オリンピックジョージア大会

化学教育の充実と化学の普及・啓発活動

化学グランプリ

国際化学オリンピックへ代表派遣

普及活動

夢・化学-21

(実験教室、化学クイズショー、出前授業など)

化学普及書の発行

教育政策提言

化学だいすきクラブ

(小・中・高生対象のニュースレター発行)

各支部実験教室・講演会

化学の日(10月23日)・化学週間

中高生会員制度

未来の化学者を応援します



産学連携

CSJ 化学フェスタ (日本化学会秋季事業)

産学官の交流深耕による化学、化学技術の発展、イノベーションの推進・強化、化学の社会への発信が目的。テーマシンポジウム、産学官 R&D 紹介、学生ポスター、公開企画、産学官コラボレーション特別企画などを実施。

産学交流委員会

春季年会における ATP 企画、技術者教育、人材交流などを推進。
化学技術基礎講座(化学技術者の基礎化学力向上を目的とした集中講義)
R&D 懇話会(企業所属会員の少人数による研究会・勉強会)
技術開発フォーラム(最先端技術に特化した講演会)
博士セミナー、化学分野 JABEE 委員会への委員派遣

就職支援

大学・企業人事担当者による就職交流会、
化学系学生のための企業合同説明会



国際交流

環太平洋国際化学会議 (PACIFICHEM)

1984 年より 5 年に一度ホノルルで開催
日・米・加・韓国・中国・豪州・ニュージーランドの化学会が共催
第 6 回(2010 年 12 月開催)では世界約 60 ヶ国 12,700 人が参加
第 7 回(2015 年 12 月 15 日~20 日開催)では世界 67 カ国、17,500 人が参加
第 8 回は 2020 年 12 月(日本が主催開催)

国際純正・応用化学連合 (IUPAC)

世界約 61 ヶ国が参加する化学の国連。化合物の命名、原子量の決定他
日本化学会は賛助・個人会員の事務局
2012 より 2 年間 巽和行 名大教授が会長を務めた。

アジア化学会連合 (FACS)

アジアの化学会の連合(加盟 30 ヶ国) 16ACC は 2016 年 3 月バングラデシュ
で開催。17ACC はメルボルンで開催予定。

CS3

独・英・中・米・日の参加 5 ヶ国化学会が、研究助成団体とパートナーを組み、
世界が直面する喫緊のテーマについて討議。白書にまとめ政府や会員に提言
第 7 回 CS3 は 2017 年 9 月中国で“Solar Energy & Photocatalysis”のテーマで開催予定

2 国間協定(日中若手化学者フォーラム、日英シンポジウム)

その他、米国、英国、ドイツ、中国、韓国、カナダなどの主要化学会と交流

日欧科学技術イノベーションシンポジウム

大使館、JSPS、スウェーデン王立工学アカデミーなどの協力を得て、日本発の
イノベーションを伝えるシンポジウムを開催



INTERNATIONAL UNION OF
PURE AND APPLIED CHEMISTRY



